

東京鳳鳴会報

36号



2025年
8月1日発行

発行 東京鳳鳴会「秋田県立大館鳳鳴高等学校同窓会」

発行人 石川早苗

tokyohomeikai.com

〒101-0035 千代田区神田紺屋町46番地 風月堂ビルB1

mail:tokyohomeikai@gmail.com

題字:【初代会長】竹村吉右衛門

同窓会の意義

東京鳳鳴会会長

30期 石川 早苗

昨年の総会で会長職を拝命いたしました。早1年を迎えるところとなりました。

会員の皆様には会費納入、総会懇親会と鳳鳴塾への参加などありがとうございます。

「出会い」・50歳手前の同期会あたりから同期とは急速につきあいが広がりました。高校時代はクラスか部活が一緒の友人しか知らなかった。歳を重ねて人生経験を積み、故郷を懐かしむ気持ちが引き寄せ合うのでしょうか。当時は関わりがなかった同期も今は大切な友人となりました。

「同窓」・先輩後輩も高校で関わらなかったとすると同窓会しかありません。

ん。年齢が離れていても同じ高校を卒業したという安心感があります。

私も少数派の同郷の一回り上の先輩方とここで出会いました。一昨年にはまだ大学生の同郷の後輩が来てくれて、俄然楽しくなりました。

まずは同期との交流、そして上へ下へと交流ができていくことが同窓会の要であり意義だと思います。

どこの同窓会も然りですが、若手減少、学校再編、関東圏に出てくる後輩も減っており会員減少問題を抱えています。先輩方が繋いでくれたこの縁を後輩達にも繋いでいきたいのです。

会の運営は皆様の会費で成り立っております。

郵便代の値上げや物価高のおり経費も見直し、ホームページやメールでの連絡も進めてまいりました。また、事務所は皆様のご寄付によって存続しております。会費納入、ご寄付、重ねてお願い申し上げます。

今年度の総会懇親会は9月28日(土)。会場も変更ありで「オーラム御徒町」となります。

鳳鳴塾講師は元プロレスラーの40期三澤威氏にお願いしました。毎年参加されている方も初めての方も女性の参加も大歓迎です。幹事一同お待ちしております。

総会懇親会ご案内

懇親会会場

開催日時 2025年9月27日(土)

総会 11:00 開始 懇親会 12:30 開始 15:00 終了

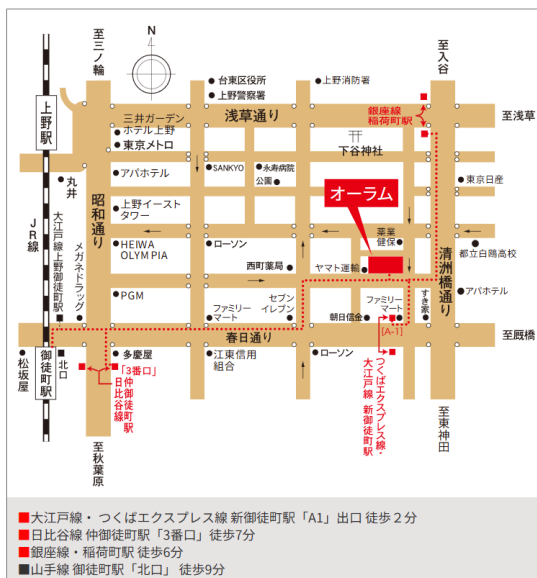
住所: 〒110-0015

東京都台東区東上野 1-26-2

ジュエリーブタウ・オーラム

電話: 03-5812-1123

FAX: 03-5812-1125



ご挨拶

大館鳳鳴高校 校長 深井 裕之



うございました。

貴会の活発な活動や皆様のご活躍については、母校の後輩のために送っていただいた東京鳳鳴会報を拝見して想像しておりましたが、実際の会場で感じた皆様の年代を超えた絆の深さや母校への思いなどには心打たれるものがありました。また、会場では長野で暮らす私の叔父と再会するサプライズもあって忘れがたいひとときとなりました。

さて、先日学校で行われた全県総体壮行会でのこと。生徒会長が今は歌われていない「臥薪嘗胆」に挑戦したものの途中で歌えなくなってしまうという場面がありました。その時、すかさず同窓教員十数名が前に駆け出て横一列に整列し、見事な歌を披露してくれました。

鳳鳴高校は今も師弟それぞれが熱い鳳鳴魂と母校愛をもって伝統を引き継ぎ、力強く文武に励んでおります。今後とも母校への応援をよろしくお願い申し上げます。

幹事就任のご挨拶

47期 桜庭 広樹

このたび、東京鳳鳴会の新幹事を拝命いたしました第47期（理数科卒）の桜庭広樹と申します。東京で弁護士をしております。

新幹事として、神田での幹事会の議論に参加させていただいておりますが、少子高齢化に伴う会員の減少傾向等により、同窓会活動の持続可能性に強い危機感を抱いております。

しかし、鳳鳴で育まれた絆と誇りは、時代を超えて私たちをつなぐ力があると信じています。

今後は、若い世代も参加しやすい形での交流の場づくりや、卒業生同士のネットワーク強化を図るなど、他の幹事の皆様と一緒に東京鳳鳴会に新たな価値と意義を見いだせないかを検討して参ります。

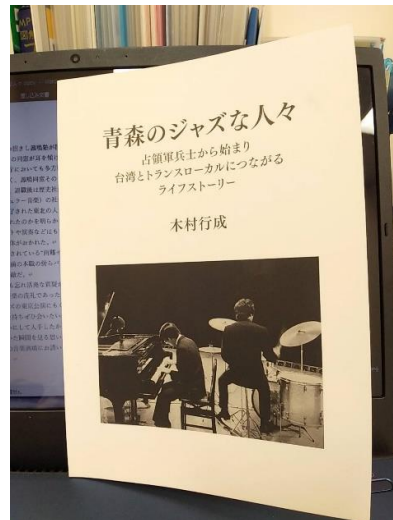
諸先輩方が築いてこられた伝統を大切にしつつ、今の時代に合った柔軟な運営を目指していきたいと思えます。

今後とも東京鳳鳴会へのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



鳳鳴塾聴講記

20期 佐藤茂樹



2月26日、27期木村行成氏を講師に招き鳳鳴塾が開催された。

“青森のジャズな人々”と題した講演に21名の同窓が耳を傾けた。

氏は海外で金融関係の要職を歴任後、金融庁においても多方面で活躍した。

しかしその専門性とは異なり語り口は優しく、鳳鳴同窓そのものであった。

自身の音楽との出会いとその後のかわり、退職後は歴史社会学の視点から文化・芸術（主にジャズを中心としたポピュラー音楽）の社会的意味を問いなおす研究を続けているという。ジャズに魅了された青森の人たちを訪ねて取材を重ね、いかにしてジャズ愛が形成されたのかを追求した。

氏が私たちに紹介したいお気に入りのアーティストや演奏は膨大であるが、今回は社会的アプローチに主眼がおかれた。

戦後の八戸の米軍基地から話は始まったが、当時の街並みの写真に写る米兵や地元民、それに撮影者、またそれを眺める私たちの視点、それぞれにそれぞれの見え方があるという考えに納得がいった。

八戸の“南郷ジャズフェスティバル”に関する研究は、氏の「一ツ橋大学の修士論文となり、フェスティバルは今夏33回を数える。

弘前で本業の傍ら仲間と演奏する人たちとの個人的な交流も魅力的だ。

講演後、名が参加した懇親会では時間も忘れ活発な質疑が続いた。

氏自身は小学2年で接したビートルズが音楽の洗礼であったようだ。

われら20期にも学校をさぼってビートルズの東京公演にもぐりこんだ者がいたことを伝えると、非常に興味を持ち、ぜひ会いたいと。

東京までの旅費の捻出や、チケットをいかにして入手したかなど、当時の情熱に触れたい、研究者魂に火が付いた瞬間を見る思いだった。

しかし残念ながらその同期は現在のところ私たちのの中では消息不明である。

私の大学同期にジャズ評論家がいると話すと、講演と同題の著書とその冒頭の同期に関する文章を呈示し、「お世話になっています。」

真摯な言葉に改めて木村さんの人柄をうれしく感じた。

懇親会後名残惜しく、幹事長行きつけのカントリーpub（pubではない）にお誘いし、終電を気にかけてながら店内のみんなと音楽談議に花を咲かせた。

講演のための機材や資料を詰めた重いバックをいつも持ちながら駅に向かう木村君と深夜の四谷で別れ帰路に就いた。

「総会に参加して」

18期 鈴木弘俊

小中高の同級生・庄司文孝さんに連絡して総会に参加。

常連の18期生との再会を楽しみにしていました。ところが、同郷（阿仁前田）の後輩・石川早苗さんが副会長（現会長）として大活躍していたのです。

同会の少数派である同郷の先輩や後輩にお会いしたことが無かったので、大変感激しました。

しかも、愚生と同じ埼玉県にお住まいとか。

孫のような同郷出身の大学生も紹介して頂き故郷談義に花が咲きました。

何時になく？お酒の回りも早かったような。正に、東京鳳鳴会の主旨でもある同窓生と繋がった瞬間でもありました。

今年のジェンダーギャップ報告書によると、相変わらず二位の我が国にあって、当会の会長が女性になったのは史上初？200年先の未来を先取りした東京鳳鳴会は素晴らしいと思いました。

石川会長さんのご健勝と当会の益々の発展をお祈り致します。

鳳鳴会の新風

29期 田村 祐子

直前に”やっぱり行かねばね”と決断、前年から市ヶ谷に会場を移した東京鳳鳴会総会・懇親会に参加いたしました。

私自身、たまたま恩師が校長になられたとの情報を得、お会いしてお礼が言いたい一心で初めて出席したのが5年前、以来、高校繋がりとという縛りの中にも毎回新たな出会いや発見が有り面白く感じます。

さて2024年の鳳鳴会総会および懇親会は久々だった2023年の会とも少し雰囲気異なっておりまして、長年培われた同窓会運営、しかもコロナ禍を乗り越えた不屈のノウハウを引き継いだ上での新風です。

新会長の石川さんはエアロビクスの先生と仰るではありませんか。

軽やかな身のこなし、エネルギーな言葉は頼もしいです。

懇親会では(あの中では)”若手”パワー全開で元応援部の本格的なエールあり、29期が誇る芸術家 高坂氏がクニマスにまつわる”いい話”を熱弁。

また大先輩の手による藍染めの大作が会場を彩り、感銘を受けました。

特別な余興が無くても皆様の個性が光り、十分楽しめる懇親会でした。

最後になりましたが、この厳しい時を乗り越えて長い間勤めてくださった佐藤会長、そして中断期間も脈々と同窓会を繋げ、本会を再開してくださった諸先輩方には心から敬意を表します。少人数な同期会でさえ 個々の状況が変わってなかなか再開できずにあります。

参加の動機(仮タイトル)

34期 三本 尚子

3級上の兄が当番幹事だった令和元年から毎回参加しています。

6年前は不安な気持ちで会場に向かいましたが、同級生と再会するとジワジワと当時の思い出が蘇ってきました。

同級の阿部英史さん村上克美君は東京鳳鳴会レギュラーメンバーなので、毎回会って懐かしく高

校生活を振り返りますが話は尽きません。

初対面の先輩方と同じテーブルになってもすぐ打ち解けられ、そこは鳳鳴愛で溢れています。

そして「来年も元気で会おうね」と言って別れます。そんな素敵な鳳鳴会にもっとたくさんのお世代の方々に参加して頂けるように盛り上げて行きたいと思っています。

「東京に無いものが、秋田にはある」

49期 長岐 康平

正直に言えば、私はかつて秋田が嫌いだった。空気はきれい。自然も豊か。

でも、どこか閉鎖的で息が詰まるように感じていた。

だから、大都会東京に行きたかった。

東京には何かがあると信じていた。

鳳鳴では普通科。

野球が好きで、下手くそながら硬式野球部に所属していた。

今思えば、練習で疲れて授業ではぼろ寝していた。練習後のグラウンド整備も、大館駅19:30終電のためほとんどできなかった。

学校近くに住んでいた仲間がやってくれていた。

本当に今でも感謝している。

卒業後は東京学芸大学に進学。

紆余曲折を経て、今は参議院議員阿達雅志事務所で秘書として働いている。

父が公務員だったこともあり、漠然と国や地方に貢献したいという思いがあった。

それが今の仕事につながっているのかもしれない。

東京という大都会は魍魎魍魎の世界だ。

とはいえ、田舎出身の私がここまで来ることができたのは、鳳鳴会の先輩そして同期、後輩のおかげだと思っています。

ありがとうございます。

東京に無いものが、秋田にはある。自然。きれいな空気。田んぼや畑。虫や動物。

そして地域のつながり。

人生は人のつながりで成り立っている。

そして、そのつながりが人を育てる。鳳鳴会に、ぜひ顔を出してみてください。

「同窓会に初めて参加して」

67期 松岡 芳篤

2024年に開催されました東京鳳鳴会総会および懇親会に、67期として初めて参加させていただきま

これまで鳳鳴会の同窓会は、大学生時代に仙台で一度だけ参加したのみで、東京鳳鳴会とはなかなか縁がなかったのですが、職場で一緒にしており、私の20年先輩である櫻庭広樹さんからお誘いをいただいたことが、大きなきっかけとなりました。

同じ鳳鳴高校の先輩が身近にいらつしやることの心強さと、代々受け継がれている母校のつながりを感じ、参加を決意いたしました。

また、櫻庭広樹さんは、私が今の職場に入るきっかけとなった先輩で、様々なご縁があるものと感じておりました。

当日は初めてということもあり、少々緊張しながら会場に向かいましたが、先輩方のあたたかなご対応に心が和らぎました。

懇親会では世代を超えて、多くの年代の方々と交流することができ、鳳鳴の絆をあらためて感じるひとときとなりました。

懇親会の終盤では、私が元応援団ということもあり、同じく応援団の後輩の方と、久しぶりに「エール」を披露させていただきました。

約10年ぶりとなるエールでしたが、不思議と身体が動きを覚えており、部活動の壮行会などでもエールを行った高校時代が懐かしく思い出されました。

正直なところ、初参加の身で皆様の前に出る緊

張が大きく、後ほど応援団の大先輩も参加されていらつしやったことを知り、大変恐縮する部分もあったのですが、温かく見守ってくださった参加者の皆様に、少しでも楽しんでいただけたのであれば幸いです。

このような機会をいただけたのも、日頃より同窓会の運営に尽力されている幹事の皆様のおかげです。

準備や当日の進行など、細部にわたるご配慮に心より感謝申し上げます。

同窓会の後、2025年の東京鳳鳴会の幹事を拝命いたしました。

今後も鳳鳴の一員として、このつながりを大切にしながら、参加してまいりたいと思っております。まだ参加されたことのない方にも、ぜひ一度その空気を味わっていただければと願っております。

秋高連 総会・フェスタに参加

30期 石川早苗



講演：与田剛 氏

左から石川会長、望月元会長、
藤岡副会長 下段、田中幹事長

5月25日東京鳳鳴会からは3人で出席しました。
田中幹事長は秋高連の副幹事長を務めておりま

す。
また、昨年まで15期望月久氏(元東京鳳鳴会会

長)が会長を務めておりました。

秋高連は在京秋田県高等学校同窓会連合会の略称です。26校120名と来賓など17名が出席され、何度かお会いした顔も見えて久しぶりにお話してきました。

講演は元プロ野球選手の与田剛氏。中日時代の星野仙一監督とのエピソードも飛び出し大いに盛り上がりました。与田氏は秋田県内で20年以上野球教室を通じて子供達の指導をされています。

高校の統合もあり、もう母校がない同窓会もあります。

秋田県の少子化を考えると人ごとではない危機感があります。仕事も子どもも増えて欲しいと願うばかりです。